

二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～
「夢・命・絆」

令和7年度第4号
(通算第29号)
会長 小林 俊之
(文責 野手 裕之)

「令和7年度第4回学校運営協議会」報告

令和7年12月12日(金)15時30分から、
令和7年度第4回学校運営協議会が、委員10名の
出席のもとで開催されました。

今回は2月20日(金)15時30分から、後期
学校評価や学校関係者評価のほかに、次年度学校運
営方針などを協議する予定です。

次第

1. あいさつ
2. 生徒会との交流会
3. 協議
教職員の任用について
4. 報告及び意見交換
学校の様子について

1. あいさつ

●藤井校長あいさつ

お忙しい中、第4回学校運営協議会にご
参加していただき、ありがとうございます。

時間がたつのが早いもので、今年も終わ
りが近づき、大きい行事も終わって、大き
なけがや事故がなく過ごせてきたことを、
うれしく思っています。

3年生は進路選択が本格化します。希望
が叶うように全力で支えていきたいと思
います。そして、結果にかかわらず、二中
でよかったと思って卒業できるように寄り添
っていきます。

本日は、生徒会との意見交換の時間を取
っておりますので、生徒たちの意見を聞
いていただきたいと思います。

また、協議としては、来年度の教職員の
任用になります。忌憚のないご意見をよ
しくお願いいたします。

●小林会長あいさつ

本日は、年末を控えた中、学校運営協議
会にご参加いただきまして、誠にありが
とございます。

さて、こちらに向かう途中で、下校中の
子どもたちとすれ違う際に、元気に楽し
く話していた様子を拝見できて、大変嬉
しく感じております。

インフルエンザが例年よりも早めに猛威
を振るっているようで、非常に憂慮して
おります。特に、受験を控えた3年生の
ことを心配しているところです。もちろ
ん、3年生以外の生徒や教職員の方々も
健康に留意していただきたいと思います。

本日の生徒会との意見交換で、楽しい学
校生活を過ごせるように、学校運営協
議会としても努力してまいりたいと思
いますので、よろしくお願いいたしま
す。



2. 生徒会との交流会

第4回の学校運営協議会では、恒例になった、生徒会との交流会（意見交換）が行われました。今後も続けていきたいと思える非常に有意義な時間になりました。さらには、生徒会全員の他にも委員長や部長など含めて、学校運営協議会の委員との意見交換の機会を設けてもいいのではないか、という意見も複数ありました。

生徒会の想いや取り組みなど（要旨）	学校運営協議会の意見など（要旨）
<p>二中での生活は楽しいですが、二中全体をもっと明るい雰囲気になるようにしたいと考えています。</p> <p>生徒会選挙の際の公約である、みんなの選択肢を増やせるよう、具体的には、校則や行事について、もっと生徒全員が満足できるようにしていきたいと思います。また、新しいことを取り入れたいと思っています。そのために、もっと多くの生徒の意見を聞きたいと思っています。</p> <p>これまでの、S I C（ストップいじめキャンペーン）、小学校訪問、二中フェス、N F E S、部長や委員長を含む会議での学校生活目標を決めることなどは、続けていきたいです。</p>	<p>生徒会が活発な学校は、魅力的な学校といえるので、たくさんの生徒の意見を取り入れた生徒会活動を続けて欲しいし、また、支援していきたいというのが、学校運営協議会としての総意です。</p> <p>この他に、個別的な質疑（一部）では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 単元テストについて、委員から質問がありました。⇒肯定的な意見がある一方で、部活動とのバランスを気にしている生徒もいるようですとの回答がありました。 ● 避難所体験をしているが、実際の災害時には中学生の力が不可欠なので、一緒に取り組めることを希望します。

3. 協議

令和8年度の教職員の任用に関して協議を行いました。

まず、藤井校長から令和8年度の教職員の任用について提案があり、協議を経て教育委員会に提出する意見書（要望）は、以下のようなものとなりました。

- 教育理念や教育課程の特色を理解して柔軟に対応できる、熱意と創造性のある教職員
- 一人一人の個性を尊重し寄り添って、温かい指導や支援ができる教職員
- これからの時代に必要な資質・能力の育成のために、専門性と経験のある教職員
- 生徒の主体性を大切にしてくれる教職員
- コミュニティ・スクールの目的と地域性を理解して、意欲的に取り組んでくれる教職員

4. 報告及び意見交換

◎学校の様子について（大林教頭）

1年生と2年生の校外学習があり、楽しく学ぶことができました。白百合学級が、合同学習発表会（11/29）に参加して、30分の長い時間、頑張って発表していました。各行事が無事に終わって安心しております。

3年生は、校長面接も終わり、高校受験などで不安などが募る時期になりますが、教職員一同、全力で支えていきたいと思っています。

◎地域学校協働活動について

1年生の授業で、絆を深めるために、「人とかかわりあい」について考える「学校支援実践講座（交流会）」を実施しました。

また、2月20日に、ソニー生命の協力のもと、3年生の授業で、夢を育むための「ライフプランニング授業」を集会形式で実施する予定です。

～市川市PTA連絡協議会「研究大会」について～

11月27日（木）に、教育会館において、研究大会が開催されました。

（午前の部）心も体も“安全・安心な学校づくり”へ、保護者の意識が大きく高まった時間

午前の部では、ASUKAモデルの当事者である桐田寿子氏、救命バイスタンダーの長野庄貴氏、そして、救命救急医で「千葉PUSH」理事長の本間洋輔先生を迎え、「いのちを守るために、保護者としてできること」を深く学ぶ時間となりました。

最初に、桐田氏から「いのちを守るために～ASUKAモデルへの想い～」をテーマにお話がありました。

突然死で娘・明日香さんを亡くした悲しみの中、
肉体の死の後の忘れられるという二度目の死に対し、娘の二度目の死を少しでも遅らせたい、多くの人に長く娘のことを覚えていて欲しいという願い、

そして、娘が大好きだった学校に、「娘なら何を望むだろう」と問い続けた結果、「学校が心も体も安全で安心できる場所であることを願っているのではないか」という気づき、

そのような想いから生まれたASUKAモデル（体育活動時等における事故対応テキスト）。

こうした想いを、これからも広げていきたいと、改めて感じました。涙をこらえるのが難しいほど、心に響くお話に、参加者のほとんどが満足と回答されました。

続いて登壇した長野氏からは、「救助を手伝った方に寄り添うために」をテーマに、救命協力者としての体験談が語られました。

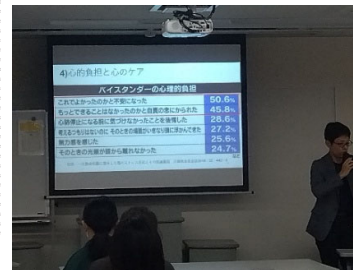
バイスタンダー（救命現場に居合わせた人）が抱える心的ストレスや、バイスタンダーを支える制度についての説明がありました。

実体験された方の話に、参加者から勉強になったなどの感想があり、新たな気づきを生む機会となったと感じました。

最後に、「救命救急とは？AED使用方法について」と題して、本間先生によって、「PUSHコース（救急救命講習）」が行われました。

胸骨圧迫の重要性の説明を受け、参加者全員で専用キット（あっぱくん）を使って胸骨圧迫を体験しました。胸骨圧迫には、相当な力が必要で、一人では継続が難しいことを実感できたようです。

その後、AEDの使用方法について、非常にわかりやすい説明がありました。



PUSHコースを実施（開催）したいという声や「本日のテーマは、今後も、取り上げていただきたいです。」との回答から、今回の研究大会（午前の部）の最も大きな成果は、「子どもたちにとっても、そして、大人にとっても、心も体も安全・安心な学校づくり」に対する参加者の意識が高まったことではないかと、強く感じました。

（午後の部）子どもたちのため、そして、PTAを楽しむため、課題解決に向けて、ともに



午後の部はグループ討議で、PTAの課題などについて、保護者と教員で意見交換を行い、その後、各グループでの話し合いの内容の報告がありました。グループ討議を通じて、他校PTAの取り組みなどを聞くことができ、楽しく有意義な時間となりました、というような感想が多数ありました。



保護者や地域住民による学校関与がもたらす子どもたちへの望ましい効果は、多くの研究で明らかになっている¹一方で、課題があるのも事実です。このようなグループ討議を通じて、たとえ明確な解決に至らなくても、子どもたちはもちろん、大人にとっても素敵な時間を共有できる学校づくりへとつながって欲しいと思います。

～学校支援実践講座（交流会）について～

12月4日（木）と5日（金）の5・6時限目に、1年生の授業で「人とのかわりあい（学級内の人間関係）」について学ぶ「学校支援実践講座（交流会）」がありました。

交流会は、架空事例（友だち同士のトラブル）に対して、5人程度のグループで思ったことや考えたことを1人1人が発表し、話し合いをします。各グループには地域支援者が入り、子どもたちの意見などを共感的・受容的に聞きながら、話し合いを進めていきます。

今回の交流会を通じて、子どもたちが、「人とのかわりあい」を楽しく学び、友だち同士だけではなく、いろいろな人たちとの「絆」を大切にする心が、一層育まれ、今後につながっていくものと信じて止みません。



今回も地域支援者から楽しかったという声を多数頂戴しました。最後に、地域支援者の皆様に感謝するとともに、引き続き、ご協力をお願いいたします。

¹ 例えば、アメリカの教育研究者であるヘンダーソンとベラは、1994年に、それまでの研究（論文）を総括して、「親が学校にかかわるようになると、子どもたちは学校ですらに成長し、通っている学校は一層よくなっていく。」（Anne T. Henderson and Nancy Berla, ed., A NEW GENERATION OF EVIDENCE, National Committee for Citizens in Education, 1994, p. 15.）と指摘しており、その後の研究においても同様の見解が多数あります。